

今日の説教のポイント<使徒言行録 12 章 1-19 節>

新しい年を迎え、私たちはどのように今年生きて行くか。今年最初の日の礼拝において与えられる御言葉から導かれて考えたい。

①慌てず騒がず、与えられる御言葉に淡々と聞いて従って行きたい。

年の最初ということで特別な箇所を選ばず、聞き続けて来ている「使徒言行録」の続きから聞くことにしました。最近思います、聖書のどの箇所からも神様の御旨が聞けるのだと。読む箇所を私たちが選ぶのではなく、与えられた箇所を御旨に沿って読んで聞き取ろうとする態度が大事なのだと。今日の箇所から何が聞き取れるのでしょうか？ 神様は何を語りかけて下さっているのでしょうか？ 楽しみです。

②殺す支配者、殺される信仰者。そこから聞き取るべきことは？

ヤコブを殺したヘロデ王は、「それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕えようとした」とあります。紀元 41 年に政権を握った彼は崇高な政治的理想など持たず、その場しのぎに民衆を御して行く方法だけを考え、したがってそのために他人の命を平気で奪えたのです。今の世にも起きています。ここから何を聞き取りますか？

③この世的発想ではなく、神の国を約束された者らしい発想で生きて行くこと。それが今年与えられた最初の聖書の箇所から覚えたいこと。

ヤコブは 12 使徒のうちで最初の殉教者となりました。世間では昔も今も若くして死ぬと「お気の毒に」と言われます。あなたはそんな考え方から信仰によって本当に解放されていますか？ 元旦の今日、そう問われたような気がします。ヘロデ王はヤコブを殺した後、紀元 44 年に思いがけない死に方をします (20 節以下)。しかし同じようなことをしても長く生きる者もいます。信仰者はこれに対して「神様、どうして？」と発想するのではなく、「ああそうか、この世の生はその長さによらないのですね、神様」と発想しなければなりません。

私たちはこの聖書から、死者の復活を教えられ (I コリント 15 章)、信仰によってそれを受け入れてこの世を生き始めた者たちです。今年も、それぞれに与えられたこの世での生を、神の国に迎え入れられる恵みを与えられたことを信じて生きる者らしく歩んで行きましょう！